

法政大学教職課程 履修カルテ

【提出までにしておくべき内容】

- ① 赤で囲んだ箇所の記入（ボールペンで記入すること。鉛筆不可）、
- ② 写真貼付、③成績通知書及び課程表のチェック・貼付、をすべて完成した状態のカルテを提出してください。

未完成の場合、再提出となります。この説明文書「提出までにしておくべき内容」は、11月22日から各所属学部事務課で配布します。
必要な方は各所属学部事務課までお越してください。

氏 名	法政 太郎
-----	-------

この記入例は、本書を一部抜粋したものです。本書のページ数とは異なるので、ご注意ください。

法政大学における教員養成の理念

本学における教員養成の理念は、本学の基本理念である「自由と進歩」の理念に立った「社会の進歩を担う自由な個」の形成を基本とする。教育の仕事は、子ども・若者の育成を通して未来の創造に参加する営みである。また、教育の仕事は、社会が蓄積してきた諸価値を、自ら吟味しつつ若い世代に伝え、彼らの主体的で批判的な価値継承の力を育てていくことにある。教師はそういう仕事を通して社会の未来に対する責任を背負っている。また教育の仕事の素晴らしさは、大きな可能性を持ちつつも傷つきやすい子どもや若者と共に生きることによって、彼らを支え、彼らの生きる意味と希望を豊かに紡ぎ出していくことのなかにある。そのような大きな責務を担うための教員としての力量や専門性は、教員としての職に在職するなかで生涯研鑽して獲得すべきものであるとともに、取り分けて大学4年間の意識的、計画的な教職課程の履修と、教職を目指す大学生としての日々の多様な努力によって獲得すべきものである。

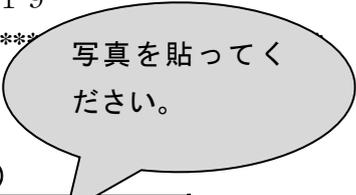
本学の教職課程において、このような理念に立ち、教職のための専門知識や指導技能の計画的な習得と、「自由と進歩」の精神に基づく高い職業意識の獲得のために、この履修カルテを活用して、意識的な努力・研鑽に挑戦することを期待する。

＜履修カルテの記入・管理の方法および注意事項＞

- (1) 2010年度入学生から、教職課程履修を選択し、教職免許の取得を目指そうとするものは、そのはじめに、この「履修カルテ」を受けとり、記録し、教員に求められる力を意識的に高め、教職課程を計画的に履修していくことが求められる。また、2010年度以降入学者のうち、1年次から教職課程の履修を始める以外の場合（2・3・4年次、あるいは大学院等にて教職課程の履修を始める場合）についても、教職窓口個別に申請のうえ、同様に履修カルテの記入・管理を行わなければならない。
- (2) 「履修カルテ」は、基本的に本人が管理し、履修状況は、各自の責任において確認する（不安や不明な点があれば、所属学部の窓口にご相談すること）。2年次後期の教育実習内諾書配布時に「履修カルテ」を教職窓口へ提出して、記載状況の確認を受ける。また、3年次の「教育実習事前指導」および4年次後期の「教職実践演習」履修時は、この「履修カルテ」を担当指導教員へ提出する。その担当教員は、授業終了時、「履修カルテ」にコメント及びアドバイスを記入して学生に返却する。
- (3) 「履修カルテ」には、毎年度取得した成績通知書の写しを添付する。また、取得を目指す免許教科の「教職に関する科目」「教科に関する科目」「教科又は教職に関する科目」「その他（科目）」の履修・単位取得状況を把握しておくために、教職課程履修要綱から該当する課程表をコピーして貼り付け、その単位取得状況を明確にする（既修科目に蛍光ペンで線を引く）。
- (4) 卒業後は、免許取得のため「履修カルテ」が必要となる場合があるので、各自が責任を持って保管する。
- (5) 「履修カルテ」の指導教員は、3年次教育実習事前指導担当教員及び4年次教職実践演習担当教員である。
- (6) 「履修カルテ」の記入と管理についての手続きや相談窓口は、市ヶ谷地区については教職・資格窓口、小金井と多摩地区、通信教育課程については、所属学部の教職窓口とする。
- (7) 「履修カルテ」には個人情報記録されているので、管理に十分注意する。
- (8) 「履修カルテ」紛失の場合、速やかに窓口で再発行を受け、記録を再度作成し、記入を継続する。

履修カルテ目次

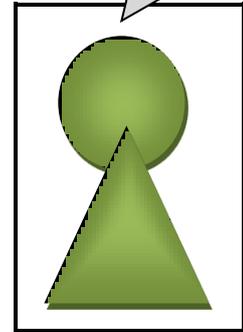
- ◇法政大学における教員養成の理念・カルテの注意事項
- ◇Personal Data 1
- ◇カルテ（Ⅰ）教職に関する科目の履修状況 2
- ◇カルテ（Ⅱ）教科に関する科目の履修状況 3
- ◇カルテ（Ⅲ）実習関連科目等の履修状況とその総括と反省 4
- ◇カルテ（Ⅳ）自己評価シート 5
- ◇成績通知書添付欄（1年次～4年次） 6～10
- ◇免許教科の科目履修状況一覧 11～15
- ◇指導教員のコメント 16
- ◇自由記録欄 17～18
- ◇教育職員免許状取得までの履修・手続きモデル 19



Personal Data

（カルテを受領後、速やかに記入し、写真を貼付すること）

ふりがな	ほうせい たろう		
氏名	法政 太郎		
学部	学科	入学年度	学生証番号
経済	経済	2011	11C0000



住所	〒194-0298 東京都町田市相原町4342	電話	〈携帯〉 090-XXXX-XXXX
	〈変更後の住所〉 〒		〈自宅〉 03-XXXX-XXXX
	〈変更後の住所〉 〒	メールアドレス	XXXX@XX

取得予定 免許	<input checked="" type="radio"/> 中学・高校	<input checked="" type="radio"/> 一種・専修	社会
	<input type="radio"/> 中学 <input checked="" type="radio"/> 高校	<input checked="" type="radio"/> 一種・専修	地歴
	<input type="radio"/> 中学 <input checked="" type="radio"/> 高校	<input checked="" type="radio"/> 一種・専修	公民
	<input type="radio"/> 中学・高校	<input type="radio"/> 一種・専修	

指導担当教員氏名（教育実習事前指導担当） <div style="text-align: right; font-size: small;">※3年次に記入。</div>	指導担当教員氏名（教職実践演習担当） <div style="text-align: right; font-size: small;">※4年次に記入。</div>
--	--

◇法政大学教職課程 履修カルテ（Ⅰ） 教職に関する科目の履修状況

単位を修得した「教職に関する科目」について、以下の欄に必要な事項を記入すること。

	授業科目名	教員名	単位	修得年度	成績	履修についての自己評価、反省
1	教職入門	●●●●	2	2011	A	教師とは何か、教師の任務、教師に必要な資質、教師が置かれた状況などを、理解し、自分なりの教師像を描くことができた。
2	教育原理	××××	2	2011	A	教育の歴史や思想を学ぶことを通して、教育の成り立ち、在り方を考えさせられた。認識不足の点も残っているため、研究を重ねていきたい。
3	教育の制度・経営	△△△△	2	2011	B	教育行政、学校の裁量、課題など、教育の仕組みを学んだ。地方と国の役割が理解しきれなかったので、本や新聞を読んで知識を深めたい。
4	教育心理学	○○○○	2	2011	B	子どもの発達・人格形成・学習過程や適応過程、発達障害を学び、教師が生徒の発達を促すための関わり方を研究する必要があると思った。
5	教育相談	■●●●	2	2011	A	生徒の不応行動、問題行動の実態、それらへの教師の支援法（カウンセリングなど）を理解した。生徒を理解することが大切だと実感した。
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						

◇法政大学教職課程 履修カルテ（Ⅱ） 教科に関する科目の履修状況

記入 時期	「教科に関する科目」の履修に際しての、各自の 課題と目標（各年次開始時に記入）	「教科に関する科目」の履修を終えての、 総括・反省（各年次終了時に記入）
2年次	<p>【課題】</p> <p>① 日本史の流れ、全体像と、各時代の特色について、第三者に説得力をもって説明できるようになるまで、理解する。 日本史が不得意だが、社会科の教師を目指すには、不得意を克服する必要があるため。</p> <p>【目標】</p> <p>① 2年次に履修できる限りの科目を履修する。 ② 「日本史Ⅰ」「日本史Ⅱ」を履修し、理解を深め、A+の成績をとる。そのために、授業以外にも、「シリーズ日本の歴史」（全9冊）を読み込み、自分なりの理解をノートにまとめ、自分なりの参考書を作成する。</p>	<p>「日本史Ⅰ」「日本史Ⅱ」を履修し、目標であった成績「A+」を取得することができた。また、「シリーズ日本の歴史」を全9冊読み込み、自分なりの参考書を完成させることができた。 ただ、第三者に説得力をもって説明できるまでには至っておらず、日本史の苦手意識が克服しきれていない。今後も日本史の勉強を継続していく必要があると痛感した。</p>
3年次	<p>【課題】</p> <p>自分が解決しなければならない問題、能力が足りない部分を記述してください。</p> <p>【目標】</p> <p>課題を克服するために、自分が成し遂げようと設定した到達目標を記述してください。</p>	
4年次	<p>【課題】</p> <p>【目標】</p>	

◇法政大学教職課程 履修カルテ（Ⅲ） 実習関連科目等の履修状況とその総括と反省

各実習等終了後、以下の欄に必要事項を記入すること。

区分	期間・学年等	実施内容	自己反省・総括
教育実習	期間 (週間) 年 月 日～ 年 月 日		
	学年		
	実習校名		
	実習校からの評価		
<div style="border: 1px solid gray; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;"> カルテ提出時まで介護等体験を済ませた方は、ご記入ください。 </div>			
介護等体験	社会福祉施設 期間 (5日) 2012年 8月 23日～ 2012年 8月 27日 学年 2 施設名 △△老人憩いの家	毎日の食事の世話や、入浴の際の補助を行った。	食事の介護は、お年寄りの非常に遅いペースに慣れなかった。また、すぐに手をだして手伝おうとした時に、職員の方から「見守る」「受け止める」ことで、利用者が自力でできることをさせることの大切さを教えられた。
	特別支援学校 期間 (2日) 2012年 6月 5日～ 2012年 6月 6日 学年 2 学校名 ××特別支援学校	重度の障がいを抱える生徒さんとの会話、車いすの操作、洋服の脱ぎ着の手伝い等。	通常の会話が難しいため、なかなかコミュニケーションを図ることができなかった。2日間では、足手まといになるばかりで、体験としてはやや短いと思った。
その他のボランティア体験、教育等体験			

その他の教職に	ボーイスカウト所属 (大学4年間)
活かせる特技等の記録	野球部

◇法政大学教職課程 履修カルテ (IV) 自己評価シート

(1) 教員として求められる知識理解や技能、スキル等に関して自己の到達点と課題を明らかにするための自己評価を行う。(到達段階は1<2<3<4<5)

年間(2年次)を振り返って、到達段階の数字を○で囲んでください。

領域	評価項目	指標	2年次自己課題チェック	3年次自己課題チェック	4年次自己課題チェック
学校教育理解	教職の意義と課題	教職の意義と課題の理解	1, 2, 3, 4, ⑤	1, 2, 3, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5
	教育の理念や歴史の理解	教育の理念や歴史の理解	1, 2, 3, ④, 5	1, 2, 3, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5
	学校教育制度や仕組みの理解	学校教育の制度や仕組みの理解	1, 2, ③, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5
子供理解	心理・発達論的理解	子ども理解に関する心理・発達論の基礎理解	1, 2, 3, 4, ⑤	1, 2, 3, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5
	子どもの権利についての理解	憲法の人権や子どもの権利条約の理解	1, 2, 3, 4, ⑤	1, 2, 3, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5
	子どもの状況に応じた対応	いじめ、不登校、特別支援教育等についての基礎理解	1, 2, 3, ④, 5	1, 2, 3, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5
他者との協力	他者との共同協力	他者の意見に耳を傾け協同することができる	1, 2, 3, ④, 5	1, 2, 3, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5
	保護者・地域との連携と協同	保護者や地域との連携・協力の重要性を理解している	1, 2, ③, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5
	教職員間の連携と協同	学校において責任ある役割を担い他の教職員と協同できる	1, ②, 3, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5
表現と聞き取り	豊かな表現力	豊かな表現力で他者に伝えることができる	1, ②, 3, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5
	他者の聞き取り	他者の表現に共感し聞きとることができる	1, 2, ③, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5
	発達段階に対応したコミュニケーション	発達段階に対応して子どもとコミュニケーションできる	1, 2, ③, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5
教科及び教育課程について	教科内容についての基礎理解	免許の教科に関する基礎知識と基礎理解	1, 2, ③, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5
	学習指導要領や教科書の理解	関連する学習指導要領や教科書についての知識と理解	1, 2, ③, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5
	教育課程編成についての理解	免許教科の教育課程編成についての基礎理解	1, 2, ③, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5
	学習指導法・評価の基礎理解	学習指導の方法や評価の方法についての基礎理解	1, ②, 3, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5
	道徳・特別活動	道徳教育、特別活動の基礎理論や指導方法の基礎理解	1, ②, 3, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5
	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間についての基礎理解と指導方法の獲得	①, 2, 3, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5
	情報機器の活用	情報機器の活用についての基礎知識とスキルの獲得	1, ②, 3, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5
教育実践	授業の組み立てと分析	授業を組み立てその実践を分析し総括することができる	①, 2, 3, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5
	教材開発力	自ら教材を開発し活用していくことができる	①, 2, 3, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5
	筆記と表現の技術	板書、発問、的確な話し方ができる	①, 2, 3, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5
	学級経営力	学級経営・運営についての基礎理解	1, 2, ③, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5
課題探求	課題認識と探求心	自己の課題を認識し、その解決に向けて努力する態度	1, 2, ③, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5
	教育時事問題	教育をめぐる新たな課題に関心を持ち、挑戦する姿勢	1, 2, 3, ④, 5	1, 2, 3, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5
社会関心	教育政策への関心	教育に関する政策や論争についての理解と関心	1, 2, 3, ④, 5	1, 2, 3, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5
	国際的な教育動向への関心	外国の教育や国際的な教育動向についての関心	1, 2, 3, ④, 5	1, 2, 3, 4, 5	1, 2, 3, 4, 5

(2) 各年次開始時に、教員になるための資質や能力において、自分の課題を設定し、記入する。
各年次終了時に、課題解決に向けて取り組んだ結果を総括として記入する。今後も向上に努力すること。

年次・時期	課題 (各年次開始時記入)	年次ごとの総括 (各年次終了時記入)
2年次	①知識不足を克服する。 ②コミュニケーション能力の向上を図る。	①授業のほか自習して、少し知識が増えた。 ②介護で、その難しさと大切さを体感した。
3年次		
4年次		
教育実習終了時		

自分が解決しなければならない問題を記述してください。

◇成績通知書貼付欄（1年次）
（成績通知書を貼り付ける）

枠内に収まるよう、「B5」版に縮小コピーするなど工夫して、のりづけしてください。

成績通知書

(取得予定の免許1教科について、課程表をコピーし、すでに単位を取得した科目に蛍光ペンで線を引き、単位取得状況を明示する。「教職に関する科目」「教科に関する科目」「教科又は教職に関する科目」「その他(科目)」について、色分けして線を引く。)

チェックシート

- (1) 貼付する課程表が枠内に収まるよう、課程表を「B5」版に縮小コピーするなど工夫して、のりづけしてください。
- (2) 課程表のコピーは、履修開始時に貼付し、履修する科目に○印をつけておいてください。カルテ提出時までに取り得た単位にマーカーで線を引いてください。
- (3) 取得予定免許教科を記入してください。カルテ1頁あたり、1教科です。

* 課程表は「教職・資格課程履修要綱」の巻末に掲載されている“チェックシート”を利用してください。

◇指導教員のコメント

2年次後期の、教員による記載状況確認欄

「教育実習事前指導」担当教員のコメント

教員氏名 _____ 印 _____ 年 _____

この欄に、指導教員がカルテの記載状況を確認したうえで、押印します。カルテ返却後、押印があることを確認してください。

「教職実践演習」担当教員のコメント

教員氏名 _____ 印 _____ 年 _____ 月 _____ 日